

南アフリカ為替週報

2022年2月17日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(2月10日～2月16日)

USD/ZAR: 14.9800～15.2800

ZAR/JPY: 7.53～7.73 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドル、対円共に、堅調気味の横ばい。水準的には3ヵ月来の高値圏と見做すこともできたし、過去半年前後の値幅の中心付近と位置付けることもできた。要は、これと言ってどうということのない水準と言えた。金融市場の関心は、10日発表された米1月CPI、11日以降緊張の度合いを一段高めたウクライナ情勢などに集まっていたが、ランドが受けた影響はいずれも限定的に見えた。米CPIは市場予想を上回る強い伸びを示し、より積極的な米連銀利上げ(注)を観測させたが、ドルの上振れは、限定的、かつ一時的にとどまった。ウクライナ情勢は、11日、米大統領補佐官が「北京オリンピック開催期間中にもロシアが侵攻する可能性はある」「ウクライナ国内の全ての米国人に退去を勧告した」などと述べたことで、一気に緊張感を高めた。15日になって、ロシア側が「演習を終えた部隊が撤収を始めた」と報じるまでの間(西側発表によると撤収の事実現時点で未確認)、ロシア・ルーブル、ポーランド・ズロチなどの新興市場通貨に加えて、ユーロなどが週末を挟んで下落、反発し、並行して円、スイス・フランなどはリスク回避の文脈で逆に上昇、反落したものの、ランドへの影響は限定的にとどまった。南ア固有の要因では、ラマポーザ大統領による10日の一般教書演説(SONA)が注目された。恒久的な支出増(基礎所得補償導入)を回避した点などは好感されたものの、ランドの反応はやはり限定的。16日に発表された南ア1月CPIも、小幅減速を見せ、南ア国債の水準切り上げ(利回りは低下)には寄与したように見えたが、市場予想に沿った数字に、ランドの反応は限定的にとどまった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/10	9:30	鉱業生産(前年比)	12月	-1.1%	+4.9%	+4.9%r
	11:00	製造業生産(前年比)	12月	-0.1%	-1.4%	-0.1%r
2/16	8:00	CPI(前年比)	1月	+5.7%	+5.7%	+5.9%
	11:00	小売売上高(前年比)	12月	+3.1%	+2.6%	+3.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(2月17日～2月23日)

USD/ZAR: 14.850～15.200

ZAR/JPY: 7.60～7.80

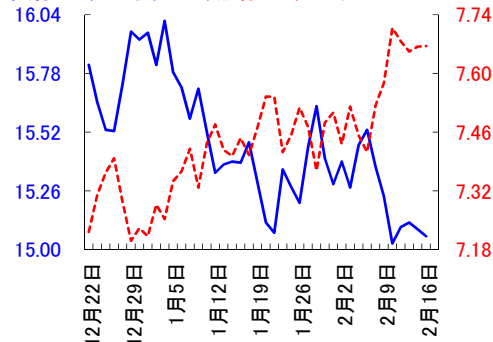
向こう1週間の南ア・ランド相場は、ウクライナ情勢の膠着を前提に、方向感に乏しい膠着を予想。この間、ウクライナ情勢がランドに与えた影響は限定的と言えたが、引き続き金融市場の注目が集まっている事実は変わらない。目先の正念場は、おそらく(北京オリンピック閉幕とロシア/ベラルーシ合同演習の最終日が重なる)2月20日以降になるものと思われ、数日～数週間の間に実際にロシア部隊の大半がそれぞれの原隊に撤収すれば、緊張は大幅に緩和されることになろう。ラマポーザ大統領の一般教書演説は、各方面から、「大統領の与党内基盤固めが進んだ」「ビジネスフレンドリー」といった高評価が聞かれたが、正直、「掛け声は良いから、具体的な進展を見たい」と思う。国営企業への投資を推進力としたズマ前政権時代の経済発展モデルが、汚職と浪費の温床を生み、南ア経済を疲弊させたのは歴史的事実。ラマポーザ大統領が民間企業の活性化を志向し、そういった過去と決別するのは結構なことだし、方向性として正しいとは思ものの、国営企業の民営化方針とか、電力事業の多様化とかいうお題目は、既に何年も前から繰り返し聞かされてきた話で、内外の投資資金を呼び込むのに、今更掛け声だけでは力不足のように感じられる。単月の動向とは言え、南ア1月CPIが早くも頭打ちした上、水準的にも米(当該指数は+7.5%)、ユーロ圏(同+5.1%)と大差ない事実には、今更ながら隔世の感を禁じ得ない。実質利回りという目線で、南ア国債が魅力的なのは否めないが、視点を変えれば、それは南ア準備銀が利上げを急がないということにもなり、ランド上昇要因と読むのも、今更ながら見当外れのように思われる。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/22	9:30	失業率	Q4			34.9%

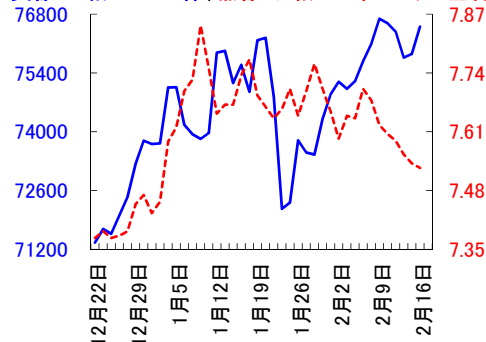
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	2月16日	7.530%
株価指数(JSE全株)	2月16日	76502.59
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	1月	+5.7%
小売売上高(前年比)	12月	+3.1%
製造業生産(前年比)	12月	-0.1%
鉱業生産(前年比)	12月	-1.1%
貿易収支(ZAR)	12月	+30.1bn
金価格(ロンドン 17:00)	2月16日	1865.41

(注) 3月利上げはほぼ確定的となり、3月の+50b.p.利上げや、7月までに合計+100b.p.の利上げなどといった思惑が広がった